第５回　看護系大学・大学院生のための

HIV/AIDS 看護セミナー

日時・場所　平成 29 年 6 月 17 日（土）12:00～16:00
首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパス　会議室 C

参　加　者　金尾雄大　（帝京平成大学 1 年）
中村公美　（国立看護大学校 2 年）
田中優美　（国立看護大学校 2 年）
荻田ひかる（神戸大学 3 年）
下條祐也　（訪問看護ステーション 看護師）

ファシリテーター

八鍬類子　日本エイズ学会認定 HIV 感染症看護師・もと HIV/AIDS コーディネーターナース
埼玉県 HIV 派遣カウンセラー

柴崎優美　首都大学東京大学院 人間健康科学研究科 看護科学域 博士前期課程 2 年・国立国際医療研究センター病院 看護師

オブザーバー

石原美和　宮城大学 看護学群・研究科 教授

進行・解説

島田 恵　首都大学東京大学院 人間健康科学研究科 看護科学域 准教授

目　　標　HIV/AIDS 外来看護の実際をイメージし、その特徴を理解することができる

プログラム（予定　進行状況に合わせて調整します）

12:00　開会
１．オリエンテーション　自己紹介& HIV/AIDS 看護クイックレビュー

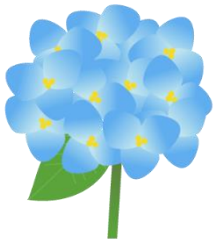
12:20　２．ケーススタディ　外来看護師の面談場面からアセスメントとケアを抽出

13:00　３．ロールプレイ　「初診時の問診」に挑戦！

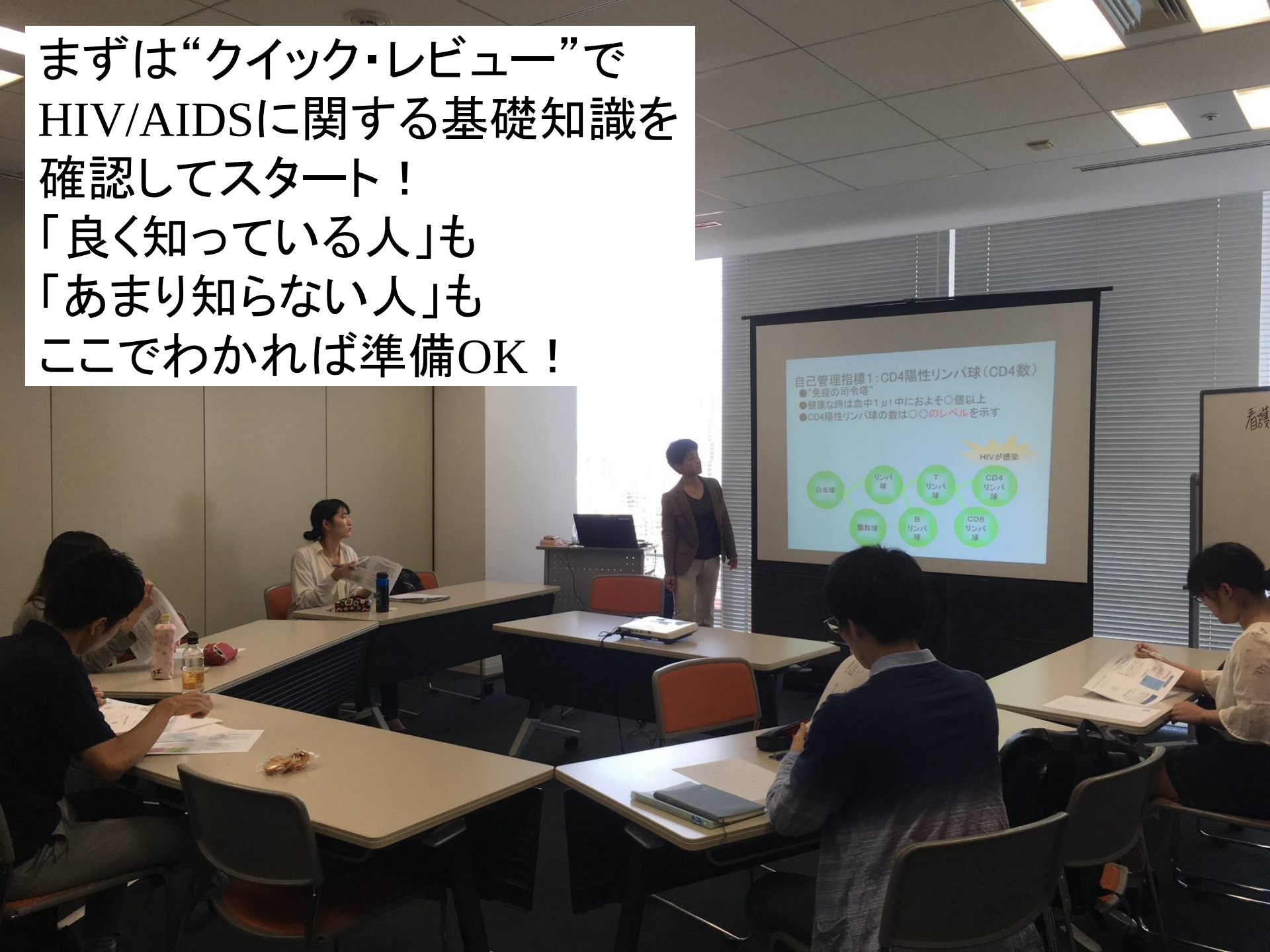
13:50　休憩・事例検討の準備

14:00　４．事例検討　HIV/AIDS 看護に携わっている看護師の皆さんと一緒に！

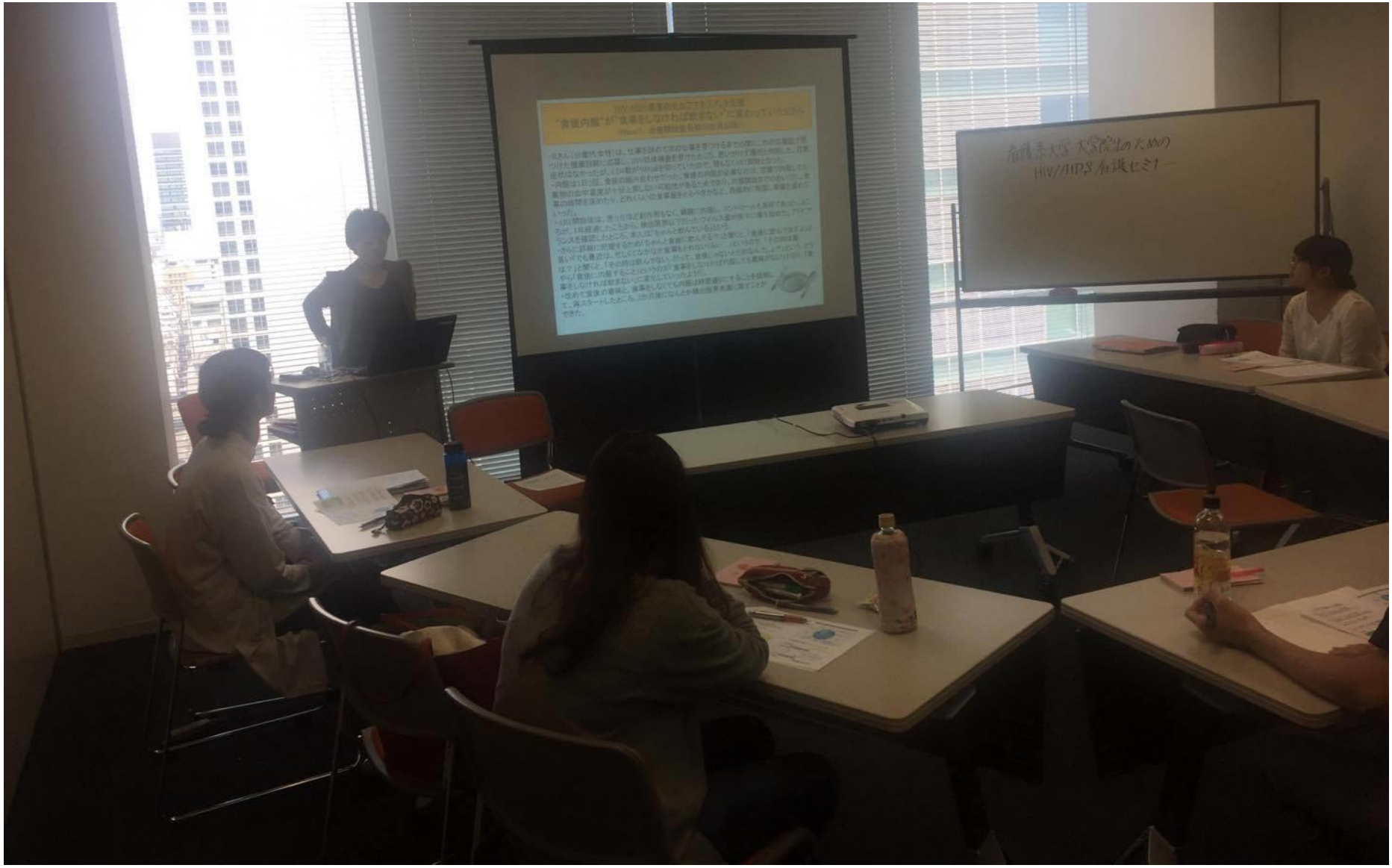
16:00　閉会
集合写真の撮影！リフレクションシートへの記入をお願いします！



まずは“クイック・レビュー”で
HIV/AIDSに関する基礎知識を
確認してスタート！
「良く知っている人」も
「あまり知らない人」も
ここでわかれば準備OK！



続いて“ケーススタディ”では外来看護をみんなで検討
「この場面における看護師のアセスメントとケアとは？」



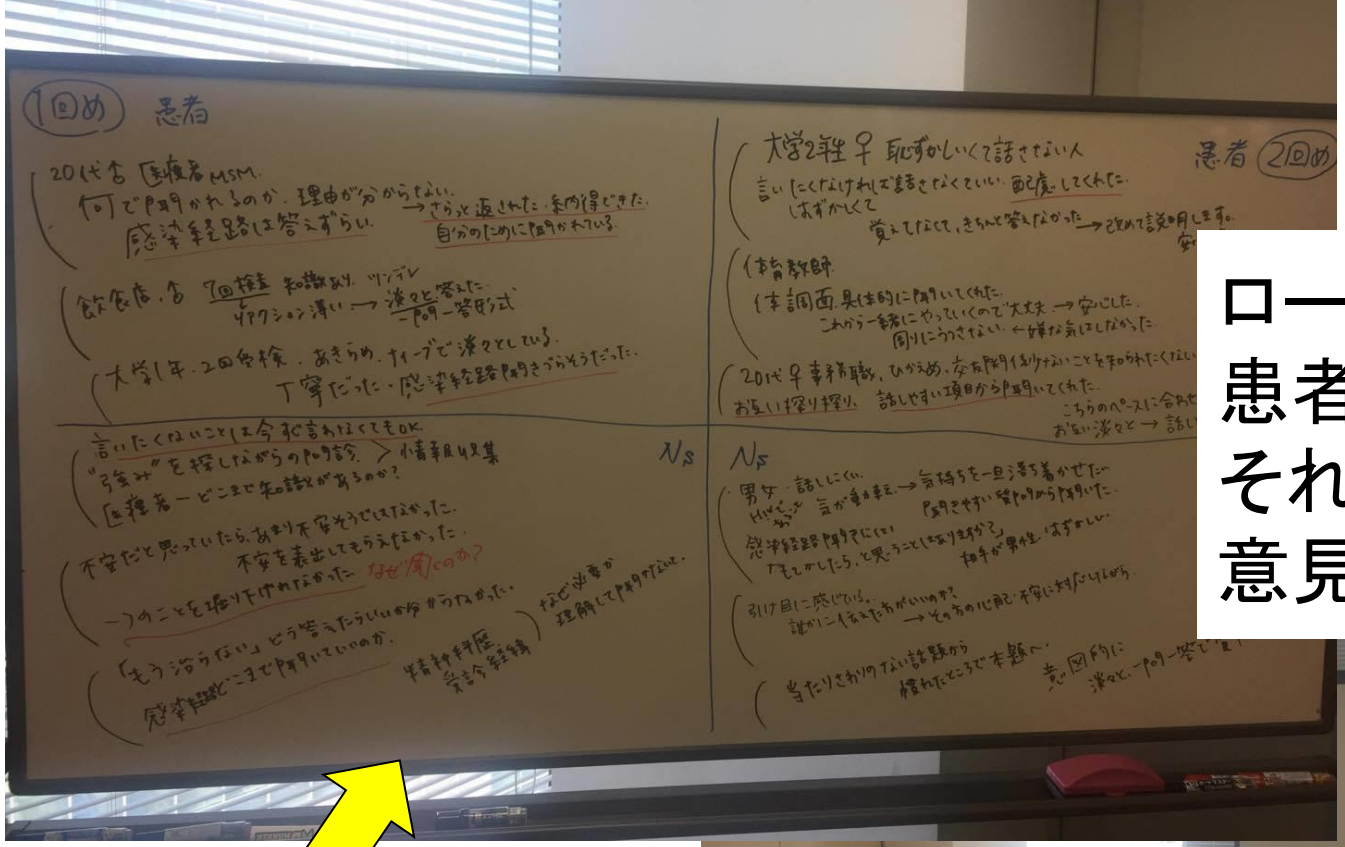
“ロールプレイ”では
「初診患者の問診」に
チャレンジ！

看護師役・患者役ともに
なりきることが大事！

患者役をしたら…

交代して次は
看護師役も…

8分間みんな真剣に“ロールプレイ”しています！



ロールプレイ後には
患者・看護師
それぞれの立場で
意見交換…

様々な気づきが
ありました！

皆さんお疲れさまでした！

太字は主催者がそうしました

1. HIV/AIDS 外来看護の場面をイメージすることができましたか？これまであなたが持っていた外来看護や HIV/AIDS 患者に対する看護のイメージと比べてどうでしたか？

HIV/AIDS の外来看護では、問診等の際にも一度の診療で全ての情報を収集したり、話を聞いたりするのではなく、最低限通院を続けてもらうとか、信頼感を持ってもらうといったことが大事なのかな、と思った。先日講義をしていただいたので、いくらかイメージは持っていたが、実際の薬を用いて説明したり、なぜある場面に看護師が介入するのかや、看護師が介入することで患者のこれからの人生にも良い影響が生じるということがわかり、よりイメージが具体的なものに変化した。

外来での面談のケーススタディでは、患者さんが長く病気と付き合っていくために、今までもっと一方的に知識や薬の飲み方を看護師が教えていくと思っていたが、どう相手に話したらいいか、いつ薬を飲むのか、食事摂取量など患者が想像よりも主体的だった。ケースの患者だけかもしれないが、私が思っていたより結構前向きな患者さんが多いと思った。

外来看護の場面をイメージできました。当たり前ですが、問診の一つ一つには大切な意味があり、それを適切に患者さんから聞いていくことの大切さを改めて考えさせられました。

患者にも様々なタイプがあり、外来の看護師がどのようにアプローチするのか、実際にロールプレイをして体験することが出来ました。初診では、患者に会うのが看護師が患者自身にとって初なので、より気を遣う必要があると思います。質問しづらいことは、それを伝えてもいいのだと、少しハードルが私の中で下げられた様に思います。

HIV/AIDS の外来についてや看護について、対象の思い（不安や恐怖など）は学んだこともありましたが、実際にロールプレイをしてみることで聞きづらさや、自分の反応や、今まで気づかなかった考え方を感じることが出来、改めて介入の難しさを感じました。

2.このセミナーであなたはどのようなことを得ましたか？またもっと得たかったことは何ですか？

患者に対して、患者に合わせた問診、ケア、目標設定をすることがどのような看護においても必要で、どれだけ重要であるかということがわかった。問診ひとつとっても、問診をする側がその意味を理解し、どのような患者であるからどのような尋ね方をしようだとか、どのようなことは出来ているから、どういう根拠をもってどのような対処やその状態の評価をしよう、といったことを常に患者と接しながら考え、それをケアに活かしていくことが大切なのかなと思った。

問診を通して、プライバシーに結構関わることの聞き方や、問診での聞き方や工夫を、他の参加者さんの意見を聞いて学ぶことができた。

太字は主催者がそうしました

患者がどう思っているのか？何をいつ聞いたら良いのかなど、様々なことに配慮する事や、患者さんのニーズを満たしてあげる事、これから先も担当として付き合っていく為の人間関係を築くことの大切さがわかった。問診を、私は学生同士のペアだったが、**本物の看護師だったらどう聞いていくかお手本が見られたらうれしかった**です。患者さんをもっと考え理解する事、もっと知識をつけなくてはと思った。

HIV/AIDS は特別感がありましたが、一般的な慢性疾患の一つと考える事で、より身近で取り組みやすさを実感しました。**HIV/AIDS に関わるエキスパート Ns は問診やケアの際にどのような点に注目し、看護実践に生かしているのかもっと知りたかった**です。

一つの病に対し、患者とのコミュニケーションの取り方が多様にあることを学べました。難しく考えすぎずに、身の周りと似た出来事と比べることができると思いました。事例検討の中の患者さんのその後どうなったかが気になります。

問診時には患者と Ns の相互作用がとてもあることが分かりました。お互いに探り合い状態になってしまうことは悪いことではないと分かりました。また、実際の事例検討を行うことで、複数の慢性疾患を抱えたリアルな患者について考えることができて、多面的な視点を持つことが必要だと感じることができました。（個人的になってしまいますが）**HIV/AIDS の予防や拡散防止の実際についてもっと知りたい**と思いました。

3.このセミナーに対する意見（良い点、改善すべき点など）があれば書いてください！

ロールプレイ時に色々な例がでてきて良かった。

たくさんの人の意見を聞けてうれしかったです。**実際の患者さんの話を聞いてみたかった**です。

ロールプレイは非常に良かったです。相手からのフィードバックがあり、自身の看護実践の振返りが出来たからです。**もう少しロールプレイに時間が欲しい**なと思いました。

違う環境で勉強している方や、働いている人と一緒に同じことを考えて意見を出し合うことで、理解がより深まりました。

現役の看護師の方の看護の展開（？）を垣間見ることができて、自分の視点の足りなさや自分なりの考えを持つことができました。